

【抄録】

第 8 回 日本国際小児保健学会 2024

一般演題 O-2

「カトリック愛に基づく国際協力の一例 “ローマ教皇庁バンビーノ・ジェズ小児病院とのカンボジア医療協力”」

小石原理子¹ 足立基² 浅野美智留³ 前野泰樹⁴

1.聖マリア病院看護部 2.聖マリア病院国際診療部 3.聖マリア学院大学看護学部 4.聖マリア学院新生児科

【背景】

当院は 2022 年、ローマ教皇庁管轄のバンビーノ・ジェズ小児病院（Ospedale Pediatrico Bambino Gesù; OPBG）と MOU を締結し、カンボジアで OPBF がソニアキル記念病院（私立、SKMH）で実施している医療協力への支援を開始した。OPBG では貧困のため小手術（陰嚢水腫、鼠径ヘルニアなど）を受けられない子供たちを救済するため村での訪問診療を行い、対象疾患検索と併せ、独自の妊産婦健診を実施している。カンボジアにも独自の妊産婦健診制度があるが、患者中心のサービス提供には至っていない。訪問診療では、SKMH のカンボジア人産婦人科医が胎児エコーを行い、その場で妊婦に説明するといった日本の妊産婦健診に相当するサービスを提供している。

【方法】

2023 年、当院の新生児科、小児科、助産師、聖マリア学院教員が SKMH 視察を行った。SKMH から訪問診療以外に新生児医療に対する協力要請があった。OPBG と検討した結果、SKMH のキャパシティ、リソース、問題点を把握するために OPBG、SKMH と当院の新生児科の 3 者でオンライン症例検討を 4 回実施した。また 2024 年、訪問診療を視察するため、小児科医、助産師、が出張し、訪問診療に関する当院からの協力を模索した。

【結果】

カンボジア側からは呼吸器治療へのサポートの依頼があったが、首都プノンペンでも人工呼吸器の導入は進んでおらず、故障時のサポートが得られないこと、呼吸器を扱えるスタッフが SKMH にいないこと、そして症例検討会を通して機材供与ではなく、SKMH の医師、看護師に聖マリア病院で研修してもらうことが決定された。また訪問診療への視察から、本邦のような産前、産後の健康教育、養育者講習は行われておらず、予定帝王切開を希望する妊婦が多くいることがわかった。

【考察】

SKMH では断らない医療を提供しているため異常分娩が集積し、分娩前にリスクを評価できれば（前置胎盤など）救命可能な症例が多数あるため、ヘルスセンターでの妊産婦健診でのレベルの向上が課題と考えられた。対象地域では特定の日に出生すると幸せとなるという迷信が蔓延しており、帝王切開のリスクについてのヘルスリテラシーを向上させることが望まれる。患者中心の医療を提供するにはクメール語が必須であるため、当院の周産期教育の教材を IT を使ってクメール語で導入し、待ち時間に活用することで、カトリックの意図を含めた患者教育の可能性が考えられる。